

○『夜回り先生』

一年の一学期に『正信偈』の練習をしている。

『正信偈』の一節、「貪愛・瞋憎の雲霧 常に真実信心の天に覆えり たとえば日光の雲霧に覆われるれ

ども 雲霧の下、明らかにして闇なきがごとし」(私たちはむさぼりの心、いかりの心にとらわれ、真実の心は覆い隠されている。しかし、それでも真実は私達を照らし、私たちの雲のような心を突き抜けて伝わってくる。)にふれ、「夜回り先生」(水谷修先生)のビデオを見た。

夜の世界にあこがれたアイという少女は「人の美しさは人の格好ではない。人の行いと心だと伝えて」という言葉を夜回り先生に託して、亡くなっていた。

目に見えない美しさ

私は「夜回り先生」の話を聞き、その話の中の亜衣さんの体験は、もしかしたら自分自身にも起こりうることもなのかもしれないな、と思います。信頼する母親から「あんた、いったい、誰の子なの」と言われたら、本当に悲しいし、荒れてしまうのだろうな、と思います。その時の亜衣さんの気持ちを想像するだけで胸が痛くなります。荒れた亜衣さんは夜の世界に入ってしまった。

私も夜の世界に少しだけあこがれを抱いていました。きっと子供だから、大人の夜の世界にあこがれたのだと思います。しかし、亜衣さんの話を聞き、夜の世界が嘘の世界であることがわかりました。また、亜衣さんの「人の美しさは人の格好ではない。人の行いと心だ。」という言葉聞いて、とても共感することができました。自分の今までを振り返る機会にもなりました。

目に見えないものこそ、本当の美しさをもっているのだと思います。その目に見えない美しさをこれからは今まで以上に大切にしていきたいと思います。

どんな人間にも生きる意味がある

僕が「夜回り先生」を見て学んだことは、夜の世界はとても怖いということと、たとえどんなに失敗した人間でも生きる意味が必ずある、ということです。人は誰だって間違えることがある生きものです。間違った方向に進んでいったとしても、その後どのように正しい方向に戻るのかが大事になります。亜衣にとっての夜回り先生のように、たとえ戻ることが出来なくなっても、必ずその人が救われるチャンスが訪れると思います。

また、間違いをおかした亜衣にも、夜の世界の怖さを知ってもらおうという役目があったように、必ず人間には一人ひとりに生きる意味があると思います。僕は、どんな人間にも生きる意味があるのなら、しっかりと生きていこうと思いましたし、もし失敗をした人を見つけたら助けてあげられるような人になりたいと思いました。